第23回旭川市アイヌ語地名表記推進懇談会の開催結果

開催日時	令和6年2月29日（木） 午後2時～午後3時半
場所	旭川市博物館 郷土学習室
出席者	小野氏,, 高橋基氏, 高橋靖以氏 (欠席: 川村氏, 本間氏) 計3名 事務局: 矢萩館長, 飯岡課員
公開・非公開	公開
傍聴者	0名
会議資料	① 令和4年度製作・令和5年度設置アイヌ語地名表示板資料 ② 令和5年度製作予定アイヌ語地名表示板文面資料

第23回 旭川市アイヌ語地名表記推進懇談会

日 時 令和6年2月29日 午後2時
場 所 旭川市博物館 郷土学習室

次 第

1 開会

2 館長挨拶

3 議題

- (1) 令和4年度製作・令和5年度設置のアイヌ語地名表示板の報告について
- (2) 令和5年度製作予定のアイヌ語地名表示板について
- (3) その他

4 閉会

事務局	<p>ただいまより、第23回旭川市アイヌ語地名表記推進懇談会を開会いたします。今年度の懇談会については、旭川市アイヌ政策推進交付金事業計画に基づき開催しております。</p> <p>最初に、この懇談会の第1回からの参加者であった、伊藤せいち氏が、2023年5月にお亡くなりになりましたので、お知らせいたします。伊藤氏には、遠方から何度も旭川へ足を運んでいただき、当事業に御尽力いただきました。御冥福を心よりお祈り申し上げます。</p> <p>本日の懇談会の内容ですが、事前送付した会議資料表紙の次第のとおりです。開催時間につきましては、2時間程度を予定しております。</p> <p>また、本日の参加者ですが、川村氏、本間氏は欠席となっております。</p> <p>それでは、館長より御挨拶申し上げます。</p>
館長	<p>博物館長の矢萩です。皆様、よろしくお願いたします。</p> <p>お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。皆様には、アイヌ語地名表示板を始め、博物館事業に様々御協力いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>アイヌ語地名表示板についてですが、皆様からの御意見いただきながら、昨年7月には40基目となります南校川の表示板を設置することができました。御協力に感謝申し上げます。</p> <p>博物館では、令和5年度はアイヌ語地名表示板の設置のほか、アイヌ語地名表示板をバスで回るツアーを10月に開催いたしました。東鷹栖の方へ行きまして、チカプニ、トゥツソ、キトウシなどを御紹介させていただきました。また11月3日のアイヌ文化に親しむ日に合わせて、40基ある表示板の一部にはなるのですが、表示板について、写真や説明の展示を作成いたしまして、約一か月の間、常設展示室に展示しておりました。また3月10日には、アイヌ語地名に関する講演会を開催いたします。</p> <p>次のアイヌ語地名表示板は、石狩川とさせていただいたところでありまして、皆様方には、石狩川のアイヌ語地名表示板の製作について、御意見いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。なお、後ほど改めて御説明いたしますが、設置につきましては、雪が溶けてからということになりますので、場所についてはただ今、調整中です。今年度は製作まで進めて、令和6年度4月以降に設置したいと考えております。</p> <p>今後も、博物館ではアイヌ語地名表示板を始め、アイヌ文化や歴史について御紹介し、理解を促進する様々な事業を進めていきたいと考えておりますので、今後とも皆様のお力添えを賜りますよう、よろしくお願いたします。</p> <p>本日は、どうぞよろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>なお、本日の懇談会の内容は、ホームページでの公開の対象となっております。会議録作成のため、録音させていただいておりますので、あらかじめ御了承ください。</p> <p>それでは、これからの議事進行については、座長にお願いいたします。</p>
座長	伊藤さんに、一分間黙禱を捧げたいと思います。
	(黙禱)

座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、今日の議題へ入りたいと思います。議題1「令和4年度製作・令和5年度設置のアイヌ語地名表示板の報告について」。まずは事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>議題1について御報告いたします。</p> <p>令和4年度に開催した、第22回懇談会において文面等の検討をいただいた「テレケウシナイ／南校川」の表示板製作と設置の報告です。</p> <p>皆様に文面と図の検討をいただき、資料2ページの写真のとおり、表示板を製作・設置いたしました。製作は令和4年度中に行い、設置は令和5年7月10日に実施いたしました。</p> <p>上が表示板をアップで写した写真、下が設置完了した表示板を少し遠くから写した写真になります。奥にあるのが、神楽中学校になります。</p> <p>資料の3ページ目が設置場所の航空写真になります。設置場所は南校川の河川敷で、神楽中学校の敷地横になります。河川敷の川側は許可がおりませんでしたので、川沿いの遊歩道の、中学校側に設置いたしました。</p> <p>議題1については以上です。</p>
座長	<p>皆様のおかげで、こういうかたちで、設置ができたということで、何か御質問ありますか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。</p> <p>それでは議題2ですけれども、令和5年度製作予定のアイヌ語地名表示板についてということで、石狩川という大きな地名が候補にあがっております。これは、この懇談会が始まったときから、こういう大きな地名をどうするか、しかも解釈が決まっていない地名がいくつもあって、石狩川もこのような難しい問題がある地名ですけれども、一方では旭川にとっても、もちろん重要な地名でして、どうするかということで今までできてしまったわけですけども。やはり、なんとかしたいということで御検討いただいております。よろしくお願いします。</p> <p>Bさんと、Cさんから、それぞれ文面案をいただいておりますので、Bさんから説明お願いできますか。</p>
B氏	<p>私は結局、資料をたくさん出しました。結局、これだという解は出ないと思います。ですから、Cさんが提案されているような、こういう内容で作るしかないのではないかと思います。</p>
座長	<p>旭川だからというわけではないけれども、資料④の川村兼一さんと太田満さんが、『旭川アイヌ語辞典』にまとめられたものが、一番新しく、山田秀三さんの研究などもふまえたうえでの結論ではないかなと思うので、資料④がとても大事になるかなと私は思っているのですけれども。年代的には、資料⑤の方が2008年なので、新しいですが。資料⑥は開発局が立てた看板の写真ですね。資料⑦は永田方正さんの『北海道蝦夷語地名解』のコピーですね。今回、用意していただいた資料は、これで全部ですか。</p>
B氏	<p>これで全部です。</p>
座長	<p>七つの資料を出してくださったのですけれども、Bさん御自身の見解はどうですか。</p>

B氏	Cさんが書かれたような、こういうかたちで、まとめるしかないと思いますね。
座長	<p>そうですね。結局、大きく二つの説があって、「回流している」というのと、「美しく作られた」というのと。全然違いますから、両方併記するしかないですよ。今の段階で、どちらが正しいというのはいえないので、両方書くしかないでしょう。あとは順番ですよ。どちらを先に書くか。やはり「回流している」が先でしょうか。</p> <p>シカリベツという地名は道内にたくさんありますよね。シカリベツは「自ら曲がっている川」というか、回流川的な地形になっているので、そういう点は共通しているといえ、共通しているところですけどね。</p>
C氏	この二つの説ですが「美しく作られた」は、ペニウシクル、つまり上川盆地の解釈。「回流している」は、下流の空知の解釈ですね。ですから「美しく作られた」が地元ですから、そちらを優先する方がいいのかもしれない。
座長	旭川としてはですね。
C氏	<p>それを書くかどうかですよ。「回流している」は中流の人の解釈で、「美しく作られた」は上流の人の解釈として記録されていると、情報を加えてもいいのかもしれませんが。</p> <p>それから資料④ですが、見出しは「Isikarpet イシカラペツ」と、「シ」にアクセントがふつてあるのですが、二番目にアクセントがある語形は、私は実例を確認したことがありません。録音資料などで出てくるのは、先頭の「イ」にアクセントがくる、<u>イ</u>シカラペツ (iskarpet) というかたちです。太田先生は、<u>イ</u>シカラペツ (iskarpet) もあげておられるのですけれども、<u>イ</u>シカラペツ (isikarpet) は解明できないというか、資料からは確認できない。少なくとも、アイヌ語の音声資料で残されているものは、<u>イ</u>シカラペツ (iskarpet) ですね。そこが、問題として残るといえば残るのですが、<u>イ</u>シカラペツ (isikarpet) だと、「シカラ」を「シカリ 回る」という動詞として解釈しやすくなるわけですけども、実例としては知られていないかたちじゃないかなと。太田先生がおられたらもう少し、何か分かるかと思うのですが。</p> <p>表示板には、iskar という、s の後ろに i がいないかたちで書いた方がいいと思います。これが実際に、アイヌ語の発音として確認できるかたちです。</p>
座長	資料④の見出しとは、違うかたちですね。
C氏	資料④には、s の後に i を入れたかたちと、入れないかたちと二つあげてますけれども、入っているかたちは、論文などでは知られていないと思います。山田秀三先生は、そこに結構こだわっておられて、資料①ですが「当時の音はイシカル (ish-kar) だったらしい。」と書いておられて、 <u>イ</u> シカラ (isikar) は音が違う、と。
座長	山田さんの書き方は sh ですが、それははっきりした音じゃないということですね。小文字で書くようなシであると。
C氏	そうですね。母音がない。
座長	母音を入れるかどうかで、変わるわけですね。
C氏	そうですね。アイヌ語の解釈が変わってしまう。

座長	そうしたら、iskar と isikar と二つ書いた方がいいのかな。
C氏	<p>ただ、母音が入った isikar は、実際のアイヌ語としては確認できないかたちなので、本当にあったかどうかは不確かです。ですから、わざわざ表示板にそれを書く根拠はないかなと思います。</p> <p>例えば、資料②の『北海道の川の名』という資料でも、「イシカラ (Ishkar アクセントは語頭の I にあった)」と書いておられるので、山田先生の認識としても、イシカラ (isikar) というかたちではなかったと認識されているのですね。ですから、ローマ字のアイヌ語とカタカナのアイヌ語は、iskar, イシカラのみをあげておけばよいと思います。ただ、その解釈は複数出しておく必要がある。</p>
座長	どういうふうに書いたら、一番いいでしょうかね。
C氏	私は、永田方正の『北海道蝦夷語地名解』をそのまま引用しましたが。
座長	ただ『北海道蝦夷語地名解』も、古いですよ。例えば、山脈の脈を使って、川脈とか、今の人には分からないでしょうね、このまま書いてしまうと。もちろん、永田方正の地名解引用とか書いておけばいいのかもしれないけど。
C氏	これをもう少し、現代語訳にして。
座長	現代風に、少し直した方がいいのかな、という気がします。
C氏	回流川も分かりにくいかもしれないですね。
座長	<p>今の言葉では、蛇行河川という方が分かりやすいと思いますね。</p> <p>資料⑤に、語法上問題があって、イ・シカリはありえないと書かれていますよね。これはどういうことでしょうか。「イ」は「自ら」という意味になるときがあって、それで「イ・シカリ」は「自ら回る川」という意味に考えていた記憶があるのですが、それは語法的にありえないということですか。</p>
C氏	ここは、やはり発音の問題を言っているのかと思います。イシカラ (isikar) という発音はない。実際は「イシ」と「カラ」の二音節の発音である。なので「シカリ」という動詞から解釈するのは、発音の問題で無理だということかと思います。また、イシカラ (iskar) で、後ろの母音の i が不在。なので、書かれていることは妥当なのではないかと思います。
座長	分かりやすく説明するのは難しいですね。
C氏	そうですね。発音の問題は、分かりやすく説明をしなくてもいいのかなと思います。話が難しくなってしまう。
座長	永田方正さんも、最初に「イシカラペツ」と書いてますよね。イシカラペツで回流川になると書いてあるけども、ここも「イシカリ」じゃなくて、「イシカラ」になっていますよね。ここで既に、「シカリ」のはずが「シカラ」になっていますが、それはいいですかね。
C氏	それはアイヌ語上よくわからないですよ。なぜそういうふうにしたのか。

座長	永田さんがそう書いているのだから、仕方ないのだろうけど。
C氏	アイヌ語文法としては、理解できない書き方ではあります。
座長	「イシカリ」だとしたら、「イ」は「自分から」という意味でいいのですか。
C氏	いえ、「シカリ」の「シ」も「自分」という意味ですから。
座長	ああ、そうですね。「シカリ」は「自ら回る」という意味ですよ。 そうすると、語頭のiはどういう意味になるのでしょうか。「たくさん」とか「はなはだしい」とかという意味でしたか。
C氏	接辞の意味として、そういう意味はないですね。不定人称みたいな、不特定のものを指します。 「シカリ」にiがつくのは、アイヌ語の文法としては解釈しにくいので、「自ら」という意味ではないと思うのですが、他の解釈というのも難しい。 また、「イシ (is)」が「美しい」という意味かどうか、分からない。今のアイヌ語だと、「イシ」は「驚いた」や「びっくりした」とか、「おやおや」のような、間投詞的な言葉で。そういうことで解釈したのかもしれませんが。今のアイヌ語の知識からは、「美しい」というのは分からないところではあります。
座長	「カラ (kar)」は「作る」ですよ。
C氏	はい。
座長	「イシ (is)」が分からないのです。
C氏	「イシカラ」を分解して文法的に考えるのは、今のアイヌ語の知識では無理というか、解釈困難というのが正直な答えになるかと思います。ですから、表示板も文法的なところには触れないで、こういう解釈がこれまで述べられてきましたというのを示すしか、方法はないのかなと思います。
座長	資料④の『旭川アイヌ語辞典』は「シ」にアクセントをつけてますから、太田さんは「回流している」の説を一番にしているわけですよ。
C氏	もしかすると、『旭川アイヌ語辞典』の見出しを「Isikarpet イシカラペツ」としたのは、永田方正がアイヌに聞いたのを尊重したのかもしれないですね。 それから、「e-sikari-pet」というのは、『旭川アイヌ語辞典』独自の解釈だと思います。他に、そういうかたちは見たことがないですね。
座長	もともとは、最初の「i」が「e」であったという説ですね。それで「頭が回る」と解釈する。これは新解釈になるわけですね。
C氏	なぜ「e」が「i」に変わるのかということは、説明されていませんが。
座長	難しいですね。最初のアルファベットをどう書くかが、既に問題になるわけですね。ただ、「iskar」がよいということですね。
C氏	「iskar」で統一していいと思います。

座長	ローマ字のアイヌ語は「iskar」、カタカナのアイヌ語は「イシカラ」とする。そして意味をどちらから書くか。「回流している」か、「美しく作られた」か。
C氏	上川の解釈では「美しく作られた」。
座長	ただ『旭川アイヌ語辞典』でいうと、「回流している」が最初にきますよね。
C氏	ああ、そうですね。
座長	「回流している」を先に、「美しく作られた」を後に書きましょう。そして本文ですが。 (板書) 「イシカラペツと読み、「回流川」とする説と、イシュカラペツと読み、「美しく作られた川」とする説がありますが、正確な意味は不明です。」 「シ」と読むか、「シュ」と読むかが問題なわけですね。
C氏	そうですね。
座長	ここで変わってくる。これは強調した方がいいかもしれない。なぜ、まったく意味が違う二つの解釈が書いてあるのかが、分からないかもしれない。「シ」と読むか、「シュ」と読むかで、意味が変わるということを強調する。
C氏	ローマ字表記を入れるのはどうでしょうか。「イシ (shi) カラペツ」、「イシュ (sh) カラペツ」というように。 またはフォントを変えたり、太字にしたりするとか。
座長	フォントを変える方がよさそうですね。ローマ字のアイヌ語名は「iskar」としましたから、そのように書くと分かりにくくなる。
C氏	あるいは下線を引くとか。
座長	下線がいいかな。その方がかっこいいかもしれないですね。ここをどう読むかで、意味が違うということが、これで分かりいいですね。 カタカナのアイヌ語名は「シ」と「ラ」が小さくなりますが、本文のは大きいままでいいかな。
C氏	それは永田方正を引用しているので、それでいいかと思います。
座長	昔は大きく書いていたということで、『北海道蝦夷語地名解』から引用したから、これでいいですね。
B氏	確認ですけど、アイヌ語名は「イシカラ」ですね。
座長	アイヌ語名が、カタカナは「イシカラ」、ローマ字が「iskar」。アイヌ語訳が「回流川(?)」と「美しく作られた(?)」。 「回流川」だと分かりにくいですね。「回流(蛇行)河川(?)」にしましょう。今まで、二つの説が並ぶのありましたか。
C氏	比布川が、二つ書きましたね。

事務局	比布川のときは、アイヌ語が二つあって、スラッシュで区切って表記しました。
座長	アイヌ語の方が二つでしたか。今回は、スラッシュで区切りますか、カンマで区切りますか。
C氏	カンマがいいですかね。
座長	ではそうしましょう。 Cさんの文案の、後半はカムイノミの言葉ですか。層雲峡でのカムイノミの記録があるのですね。
C氏	これは石狩川という言葉の、実際の使用例を紹介してはどうかと思ひまして、入れました。地名解釈は、石狩川は不明ですという文面になってしまうので、その代わりに、こういうふうに使っていますという紹介ができればいいかなと。なくてもよいのですが、スペースがあれば、こういう言葉を紹介するのもいいのではないかと。 これは空知のアイヌの方ですが、層雲峡に行ったときに唱えたお祈りの言葉です。
B氏	確認したいのですが、これまでの表示板と同じような書き方をすると、どんな風になるのですか。これ（会議資料中の「南校川」表示板の写真を示しながら）と同じように作るのですよね。
座長	そうですね。そうか、これまでは大体、アイヌ語を区切って書いていた。南校川でしたら「terkeusnay」ではなく「terke-us-nay」と分解して書いていたことが多いのですが、石狩川の場合はそれが難しい。
C氏	分解はせずに、「iskar」でいく。
座長	はい。分解すると、ややこしくなってしまう。それをやると、表示板を二つ作らなければいけなくなってしまうくらい、二つの説がまったく違いますから。 カムイノミを入れるのはいいですね。アイヌの人達は、こういうかたちで使っています。ただ「アイヌ民族」とすると、広すぎますから、例えば「層雲峡のカムイノミでは」と表現するとか。
C氏	「イシカルンクル」とか、「石狩川流域の」とか。
座長	「石狩川流域の」がいいかな。下流とするのはまずいかな。
C氏	空知の方ではありますが。
座長	「石狩川流域の」でいいですね。 (板書) 「石狩川流域のアイヌ民族のカムイノミ(神への祈り)においては」
C氏	続きですが、韻文になっているので、スラッシュで続けるよりは、対訳の感じで、左側にアイヌ語、右側に日本語とする方が分かりやすい。
座長	その方がいいですね。看板は縦長でないから、五行は難しいかもしれないですが。「チェリキンテ」は遡るでいいですか。「真ん中を流れる」ではなかったですか。

C氏	いえ，元の資料も「遡る」です。「エリキン」というのは，「上の方へあがっていく」という動詞ですので。川が遡るものである，という事例のひとつです。
座長	川は上から下へ流れるのだけど，逆に，遡っていくものだという捉え方ですよ。
C氏	今回，地図は入りますか。
座長	地図はいらないでしょう。
事務局	地図はなくても，場所など分かる川かと思しますので，入れないかたちで考えております。
B氏	話が変わるのですが，設置場所は旭川文学資料館の角の所になるのですか。
事務局	そのフェンスに取り付けるかたちを考えていたのですが…。
B氏	今までの表示板より，一番目立つ所ですよ。旭川中心部の，雪まつりなどもありますし。
館長	いい場所だったのですが，そのフェンスは強度の関係で難しいと，所管課から言われておまして，そこではない場所になります。
座長	そこではないのですか。
C氏	いい場所ですけどねえ。
B氏	そうですね。牛朱別川の表示板も近くにあつて，ここであれば，いろいろな行事がありますから，本当によく目立つ，最高の場所ですけども。
事務局	現在，検討しているのは，常磐公園の池がある所から，石狩川の河川敷に上がっていく，階段の辺りの緑地帯を考えています。その辺りであれば，設置場所としては大丈夫だろうと，公園の所管課からはお話いただいています。
B氏	それも，すごくいい所ですね。
座長	そういう意味では，このカムイノミも入れた方がいいですよ。アイヌ語と親しむという意味でもね。
C氏	良い言葉ですから。
館長	地図がないので，入るのではないかと思います。一度，作ってみたいと思います。
C氏	フォントサイズを小さくしてもいいかと思います。
座長	そうですね。
C氏	カムイノミの言葉ですが，アンコロモシリの，アンコロとモシリの間小さくスペースを入れたらどうですか。
座長	離した方がいいですね。アイヌ語を左側を書いて，右側に日本語訳を書く。
C氏	韻文なので，行ごとの訳がよい。

座長	<p>(板書)</p> <p>「アンコロ モシリ 私たちの大地 ヤウングル モシリ ヤウングル (北海道のアイヌ民族) の大地 モシリ ノシキ ワ 大地の真中に チェリキンテ 遡る アンコロ イシカラ 私たちの石狩川」</p>
C氏	<p>「遡る」は、意味が分かるでしょうか。</p>
座長	<p>アイヌ的に非常に大事な考え方ですから、説明を入れたいけども、そこまでは入らないでしょう。川だから、遡るはおかしいという人もいるかもしれませんが。</p> <p>では、これでよろしいでしょうか。</p> <p>「 イシカラ 石狩川 iskar 回流 (蛇行) 河川 (?), 美しく作られた川 (?) イシカラペツと読み, 「回流 (蛇行)」 河川とする説と, イシユカラペツと読み, 「美しく作られた」 川とする説がありますが, 正確な意味は不明です。 石狩川流域のアイヌ民族のカムイノミ (神への祈り) においては アンコロ モシリ 私たちの大地 ヤウングル モシリ ヤウングル (北海道のアイヌ民族) の大地 モシリ ノシキ ワ 大地の真中に チェリキンテ 遡る アンコロ イシカラ 私たちの石狩川 などと表現されてきました。」</p> <p>これで事務局にレイアウトを作っていたいただいて, それを皆さんで確認していただく, 今日欠席の方もいらっしゃるの, 確認を回してもらいたいと思います。</p> <p>今年度中に案を作って, 表示板の製作もして, 実際の設置は新年度, 工事ができるようになったらということですね。分かりました。では, 皆さんに回覧してください。皆さん, 御確認いただければと思います。ありがとうございました。</p> <p>それでは, 議題3「その他」について, 事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>その他として, 来年度以降に製作する表示板についての御相談です。</p> <p>前回の懇談会の後, 座長から, 陸地測量部の明治31年にみられる地名を, 今後の設置候補の地名として加えてはどうか, と御意見いただきました。そこで, 設置候補の地名として, 地図にある地名の中から, 「ポロメム」「チェブオツメム」「セタウンナイ」「オヨクウシ」の4つをリストアップしております。これは, この辺りならば旭川市内で, まだ表示板を作っていない地名。詳細な場所などは, まだ検討しておりませんが, これらの地名も候補に入れてはどうかと考えております。</p> <p>また, 今回リストアップした地名の他にも, 候補となる地名があるかと思っておりますので, ここがどうだろうという地名がありましたら, 御提案いただければと思います。</p> <p>以上です。</p>

座長	ありがとうございました。まず、これまでの候補の中で、既に設置されたものもいくつかありますよね。永山3号川や比布川は設置しました。未設置の地名は、ポン川は他自治体で難しい。また、場所が不明、アサンカラやキンクシベツ。それから、設置場所の候補がない。パンケ・アットウシナイとか。結局、サイクリングロードの関係が問題ですね。
C氏	サイクリングロードは、南の国道から現地が見えないのですか。
事務局	旧道もありますが、あまり人が通らないです。
座長	サイクリングロードは開通の見通しが無いのですか。
事務局	まだありません。区間が長いので、時間もかかるのではないかと。
座長	そうですか。せっかく観光に力を入れているのに、残念ですね。サイクリングロードはいくつかあるけども、無理だということですね。 ヌポコマナイとマタルクシベツは難しいですか。
事務局	人目につく場所が、なかなかありません。
B氏	場所はいくらでもあると思うけど。
事務局	ヌポコマナイは当麻の方から、ずっと水田地帯の中を流れている川です。
座長	設置場所はあるけど、人が見ないということですね。水田の中に立ててもしょうがない。
事務局	マタルクシベツも、江丹別よりも奥の方になりますので。支所を越えてしまうと、なかなか人が行かない場所かなと思います。
B氏	マタルクシベツは立てたい地名だけだなあ。
座長	ヌポコマナイは、明治31年の地図の、右上のところですよ。ここは、そんな水田になってますか。
事務局	今はほとんど水田地帯です。
座長	そうですかね。 ヌポコマナイのすぐ下にオヨクウシとあって、これが新たにリストアップされていますが、クエスチョンということですが。
事務局	現在の地名が不明です。
座長	何でしょう、オヨクウシって。
B氏	これは「ヨコウシ」で、「いつも獲物を待ち伏せする」だと思います。
座長	ああ、そうですね。これは場所の特定が難しいのですね。現在の場所が分からない。
C氏	川の名前でしょうか。
B氏	川があるのではないですか。

座長	獲物を狙う場所だったとのことですが。
B氏	分からない。
事務局	知里真志保さんの『上川郡アイヌ語地名解』の中に、牛朱別川筋に、こちらは「オヨコウシ」になっているのですが、「そこで・鹿の群を待伏せて狙い射つ・のが常である・場所」と書かれています。
座長	場所的は特定されていないのですか。地名として、こういう意味だと書いてあるだけですか。
事務局	はい。
座長	でも鹿を狙い射つなら、河原みたいな、鹿がたくさんやってくる所でしょうね。
C氏	知里さんは、川の名前だと書いていますか。
事務局	川の名前とも書いていない。
座長	書いてないでしょう。そういうのを、よくする所って意味で書いている。 おそらく、ぬた場、鹿が泥だらけになって、集まって、そういう所がある。そういう所で狙ったということではないかと。そうすると、現在の、それに近い所を探してみる。あるかもしれないけど、あんまり人が行かない所かもしれないですね。
C氏	「オ」がついているのは、川の合流点を示す。「オ」がついていたら、川そのものの名前かもしれないし、そうではないかもしれないけれど、合流点の場所を指す地名であるということはいえる。札幌のオカパルシは川の名前ですが、合流点を意味しています。 また、円山公園にヨコウシペツとありますが、川の名前になっています。ですからこれも、川の名前の可能性があるかと。
座長	ヌプポコマナイが合流する場所なのかもしれない。ただ、牛朱別川の南側も、等高線をみると谷地形がはっきりとありますね。南から小さい川が入っていて、その合流点かもしれない。
C氏	南側からありそうですね。
座長	そういう可能性もあります。それは現地調査しないと分からないのですが。
C氏	そうですね。合流点があれば、そこだと思います。
座長	現地調査が必要ですね。あとの3つはどうですか。ポロメムは、前に製作したポンメムに対応する所ですね。
B氏	この辺は分かると思いますよ。
座長	これは今は、川端川になっているのですか。
事務局	『あさひかわの川』によると、今の川端川だとされています。
座長	わりと特定できるのですね。それからチェプオツメムというのは、南六条川ですか。小さい支流ですか。

事務局	それほど大きい川ではないです。
座長	<p>それからセタウンナイは、南の方ですね。これは今の西御料川であると。これは美瑛の方からくるのでしょうか、分かりやすい場所ですね。</p> <p>どうでしょうか。現地調査が必要ですね。本当はそういうの、全員で行くと楽しいのですけど。</p>
C氏	博物館からだど、川端川が近いですけど、これは今はコンクリートの下ですか。
事務局	ほとんど暗渠です。ポンメムと同じような状況です。
座長	<p>逆に、今は暗渠になっているけども、昔はそこに泉がわいて、サケもやってきた、そういう所だったということを示すことが、大事だと思うのですよね。今は見えなくなっているけども。そういう変化を分かってもらおうというか、どれだけ自然が失われているか、分かった方が面白いのではないかと思います。</p> <p>ヌプポコマナイとマタルクシペツも含めて、可能性を検討していただけないでしょうか。それから新しくリストアップしていただいた地名と。現地を見ていただいて、本当は一緒に行きたいですが、そういう機会を作っていただければと思います。</p> <p>今年度は会議がのびてしまって、2月29日になってしまったのですが、来年度はもう少し早くできそうでしょうか。現場を見たりできたらいいですね。</p> <p>昨年10月のバスツアーは、どんな所を歩かれて、どなたが案内されたのですか。</p>
事務局	<p>博物館の職員が行いました。</p> <p>ルートは、博物館を出発し、近文小学校で「チカプニ」の表示板を見ました。その後、近文第二小学校で「キトウシ」と「トゥツソ」の表示板を見て、次に「ピピ／pip」の表示板を見ました。そこから引き返してきて、「ポンメム」の表示板を最後に見て、博物館に戻ってくるという行程でした。</p>
座長	使用したのは、マイクロバスですか。何人乗りですか。
事務局	なかなか狭い場所には大型バスで入っていけないので、マイクロバスを利用しました。20人ほど乗ることができるのですが、コロナもありましたし、相席で座っていただくのは、参加者の方々も気にされるかと思しますので。定員は10人としました。
座長	そうですね。びっしり乗ると大変ですね。10人くらいがちょうどいいですね。実際には参加者はどれくらいで、年齢層はどうでしたか。
事務局	午前の回と午後の回と、2回開催したのですが、午前が10人ほど。午後が4人ほどでした。年代は、50～60代の方が多いのかなという印象です。一組だけ、小学生を連れて親子がいらっしゃいました。
座長	開催は土日ですか。アンケートは取っていますか。
事務局	開催したのは日曜日です。移動型の行事だったので、アンケートは取っていません。バスをおりたときに口頭で感想を聞いた程度です。

座長	最後にバスの中で書いてもらうとか、何かするといいと思います。 比布川のところに、アフルパルがあるのですね。穴があるのですか。
事務局	穴は、草が生い茂っていてよく分からない状況です。
座長	それこそ、この表示板を立てたらいいのでは。地名にはなっていないが。
事務局	日本遺産の看板が設置されています。
座長	ああ、日本遺産で付けているのですね。知らなかったです。 これはどういう穴ですか。
事務局	私は地質的なことは分からないのですが。伝説としては、二人の男性が穴に入っていたらという。
座長	伝説の話ではなくて。例えば登別の方だと、海岸の海蝕孔など、波の力であいた穴だとか、そういうのを聞きたいのですが。
事務局	川だと思いますが…。
座長	これは川ですよ。比布川の横にあいた穴。
事務局	突硝山が突き出ている、そこを比布川が蛇行して入っているところなので、川のできた穴ではないかと思いますが。ただ、行って見ても、どこにあるのだろう、という感じです。
座長	アフルパルがあるとは、知らなかった。
C氏	アフルパルは、ごく小さいものでも、アフルパルということがあります。そういう一例も、伝承者に教えてもらったことがあります。「あれがアフルパルだ」と見せられたのが、ものすごく小さいものだったりすることもあるので。当たり前にも人が通れるサイズでは全然なかったり、そういうものもありますね。
座長	そうですか。日本遺産の看板はいつ頃できたのですか。最近ですかね、日本遺産が始まったのは、それほど前ではないですよ。
事務局	平成30年度だったかと思います。
座長	そんな前にできてましたか。 3月10日には、Cさんが講演されるということですが、会場はどこですか。参加の申込はどれくらいきていますか。
事務局	博物館の郷土学習室で開催します。申込は現時点で、20人弱です。
座長	どのような内容ですか。
C氏	旭川ではないのですが、他の地域で調査したアイヌ語地名と、それらの地名がどのように現在に継承されているのかを紹介する予定です。

座長	<p>分かりました。</p> <p>では、そういうことで、石狩川の表示板のレイアウトと、来年度の懇談会開催について、できるだけ早い時期にお願いいたします。どうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>皆さま、ありがとうございました。</p> <p>石狩川の表示板のレイアウトが完成しましたら、FAX、Eメール等でお送りいたしますので、御確認をお願いいたします。また本日の会議録についても完成次第お送りいたしますので、御確認をお願いいたします。</p> <p>それでは第23回旭川市アイヌ語地名表記推進懇談会を閉会いたします。ありがとうございました。</p>